

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 51

今月のテーマ 夫婦で作る協定書？

世の中には男と女がいて、あの時の出会いは、運命だったのか、偶然なのか、はたまた必然であったのか…。それは、良かったのか、悪かったのか？失礼、言葉が過ぎました。反省です。その出会いは「ヤケボックイに火が付いた」のごとく燃え上がり、見つめあう2人の“恋”はハッピーエンド…。メダタシメダタシ…。

恋愛中の2人は食事に行ったり、ドライブを楽しんだり、映画を見に行ったり、プレゼントをあげたりもらったりと、充実したあまーい時を過ごす。晴れて結婚と相成り、待ち望んだ2人きりの、さらにあまーい新婚生活がスタートする。妻はやさしい夫の包容力に幸せを感じ、手料理を作って夫の帰りを待つ生活。夫は料理上手な妻の作る味噌汁の匂いに目覚め、見えなくなるまで笑顔で手を振って仕事に送り出す。なんとハッピーな光景だろうか。そんな光景がいつまでも“共に白髪の生えるまで”続くことを願って今月はつぶやくことにしよう。

何故に余計なお世話とも思われるようなテーマをぶち上げたかと言うと、日頃の相談業務の中で、やっぱり“最初が肝心”なんだなあと思うことが少なくないからだ。最初に話し合い決めてさえおけば、些細なことでもめたりしないし、「なんでいまさら…」、にならずに済むことも多い。“揉め事なんて私たちにはありえない”、“新婚生活を夢見ている二人に口出しするな”、“余計なお世話だ”、とお怒りの方もいるかもしれないが、まあまあ聞いて欲しい。夫婦はそれまで20年以上もの時を別々の環境で過ごしてきたし、それぞれの持つDNAも違う。であれば、ケンカまでにはならないにしても、生活習慣の違いや、考え意見の違いはあって当然なのである。その違いを、改めて交通整理し、2人の間に割り込んでいや、二人の間を取り持って夫婦の協定書の作成をお手伝いしようと考えているのだ。「ヤケボックイに火が付いている人」も、「新婚さん」も、「改めて話し合う夫婦」も、「ヤケボックイの火が消えかかっている人」も、ハッピーな光景が続くことを願って一緒に考えようではないか。



恋愛は消費、結婚は生産!?

恋愛中の2人を経済的な視点で見ると、消費行動が実に多いことが見えてくる。食事に誘って彼氏をご馳走する。ドライブに誘って楽しむ、映画を見に行く、プレゼントを上げたり貰ったり、などなど…。どれもが、お金を使うことが殆どだ。

ところが、晴れて結婚となると、それまでご馳走になったり、プレゼントを買ってもらったりしていたのが、ラブラブの生活と同時に見えてくる現実もある。それまでの消費中心の生活が、生産活動へ軸足が移ってくるからだ。食事を作ったり、洗濯をしたり、かわいい二世の誕生、マイホームの購入、とそれぞれが愛する2人の生産活動として、どれもが充実した楽しいことであるはずだ。

ところが、楽しいはずの家族生活が、食事洗濯は妻の仕事だ、などと価値観の違いから、それぞれの考えや、相手に対する期待や依存したいことに対し、ずれが生じて来ることもある。先にも書いたが、夫婦はもともと他人であり、別の人格をもっていることをまずは認め



齋藤廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

住宅取得計画をサポートします!!

～ローン苦に陥らないために～

サポート MENU

- ・無理のない資金計画 「借りられる額」と「返せる額」…!?
- ・ライフプランと将来設計 キャッシュフローや家計のチェック
- ・住宅(建物・土地)購入の基礎知識

初回相談 無料!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
total life support 募集代理店
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間：9:30～19:00 ●定休日：水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

詳細は ホームページでもご覧いただけます。

なければならぬ。そう、違う部分があっても当然なのだ。

恋愛中に見えていなかったもの、気付かなかったことが、少しずつ見えてくる。お互いが修正しなければならぬ部分は修正し、個性として受け入れることも必要だろう。それも2人で暮らす楽しさなのかもしれないし、少しずつ「家族らしい」「家族らしい」ものが育ってくるものだ。

恋愛中は消費、結婚後は生産活動が中心になるだろうが、それは今までは向き合っていた生活から、同じ方向を向く。事への転換点とも言えるかもしれない。手を取り合って同じ方向を目指して歩いていきたいものだ。もちろん、向き合うことも大事だが、♡…。

●「同じ方向を向く」ということ！

一言で言うと、「目指す将来を共有する」ということだ。向き合う楽しさよりも、同じ方向、同じ目標を目指していることは、それが実現する結果よりも、そのプロセスのほうが幸福感は大きいような気がする。旅行が実現することもさることながら、計画を立てることから始まり、その日を迎えるまでの時が楽しいように…。

目指すべきところを共有されないまま過すということは、ボタンを掛け違えたまま過すことであり、最後には掛ける場所がなくなってしまう。掛ける場所がなくなってしまう。気付くことにならないためにも、早目の話し合いが必要だ。同じ方向を目指すためにも…。

夫婦間の協定での最大のねらいは、「同じ方向を向く」ことだ。

●「協定書作成(将来に向けた約束ごと)」の必要性

協定書というと硬いイメージがするし、何かとても面倒くさいように感じるかも知れないが、平たく言うと、将来を共に過ごすための約束ごとだ。「協定書」と呼ばせていただくのは、二人で決めた約束ごとに重みを持たせる意味で、あえて使いたいと思う。他人同士だからこそ大事に考えていきたいものである。

それぞれの関係を円滑に進むように、またトラブルにならないためにルールや約束事を定めた様々な法律や規則が存在する。道路交通を定める法規にしても、信号や道路標識が無かったら、考えただけでも空恐ろしい。共有する社会を生きたためには、何らかの秩序が無ければ平穏な社会は成り立たなくなってしまう。会社などへの入社の際には、雇用の条件を定めた雇用契約書があり、学校には校則、公共施設やレジャー施設にも利用するための規則が存在する。日本の社会の礼儀正しい秩序は、震災の混乱時にも世界が認めたほどだ。

夫婦の関係にまで面倒くさいことを言うな、と叱られそうだが、夫婦だからこそ必要なのだ。住宅取得や子供の進路、マイカー購入、はたまたお小遣いの金額などなど、その場になって始めて見えてくる、価値観や経済観念の違いで、意見が対立すると言ったことも少なくない。恋愛が成就し、結婚へとゴール…？はて…ゴール！？

やっぱりゴールではない、始まりだ。別々に暮らしていた他人同士が出会い、そして新しく誕生した家族の生活が始まる。世界に一つの2人だけの協定書を作ろうではないか。その協定書をご夫婦と一緒に作りあげようと思っている、おせっかいな筆者なのである。これから結婚する人も、新婚さんも、今から生活設計を立てようと思っている方も…。

●おせっかいの理由

夫婦のことに口を出すヤボな奴だと思われるかもしれないが、2人で全てを決めようと思っても、これがなかなかどうして…。

妻から夫へ、夫から妻への要望や思いというのは言いにくいこともあるし、ましてや協定書を作成すると厄介なものがある。そこで登場し、調整を図るのがおせっかいFPO、というわけなんだな…！

来月号は、夫婦協定書に盛り込むべき事柄や、協定書を作ろうとするかを具体化してみよう。

